

研究主題

確かな言語能力を習得し、自ら活用しようとする子の育成を目指して
～身に付けたい力を明確にした 豊かな言語活動の工夫～

校内重点研究・国語科 第5回授業研究会

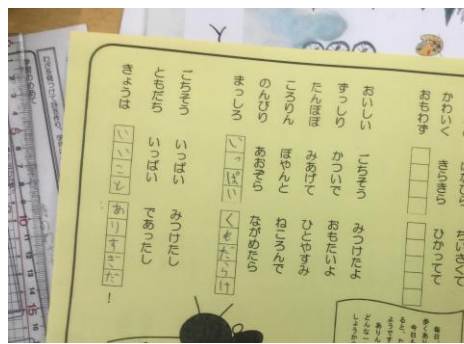
今年度最後の授業研究会を行いました。今回は4年生です。目指す子どもの姿や、子どもたちに付けたい力を学年で考え、共同研究を進めました。子どもたちと一緒に学習計画を立てることで、単元全体を見通した指導が学校全体に定着してきました。今年度の研究を通して得られた成果と課題を踏まえ、次年度も子ども達に確かな力が身につくよう、また、教師の授業力を高められるような研究を進めていきたいと考えています。

4年2組 朝田級

単元名 わざを見つけて詩を作り、学年にのほらの仲間を紹介しよう！
～めざせ ポエムマスター！～

教材 「のはらうた」（光村図書4年下）他

詩の表現技法を知り、その良さを理解しながら表現技法を活用できる姿を目指しました。



【子どもの振り返りから】

- ・わざを使うとふつうの詩よりおもしろくなったり楽しい詩になったり作者のふんい気が伝わりました。
- ・いろいろなわざを使うことで、伝えたいことがわかりやすくなったので、読む人が「なるほど！」と思う詩を作りたいと思いました。

研究協議会では…

今回講師としてお迎えしたのは2名の先生です。

野村 啓子 先生（元 長津田第二小学校 校長）

永池 啓子 先生（北部ハマアップ授業改善支援員）

（講師の先生からは次のようなご指導をいただきました。）

- ・言語感覚や語彙力を高めるには、単元学習のみでは足りない。言葉集めを、継続して行っていくことによって、段々と身に付いていくものである。
- ・思考操作のために、グループ活動を取り入れ、自分たちの力でできたという達成感をもたせると良い。それが学習の楽しさ、充実につながる。
- ・ワークシートのデザインも、子どもが思考を十分に働かせるかどうかの鍵となる。
ワークシートのデザインとは、「行」か「マス」か、字数の制限があるかないかなどである。
- ・子どもたちそれぞれの世界を表現できるようになると、詩の学習が楽しいものになる。